

11 月の作業から

シイタケ原木の伐採

11 月最初の作業として 8 日に、東側の斜面のクヌギの伐採を行いました。このクヌギは、2011 年に植樹をしたクヌギです。植栽してから、13 年目となりますが、シイタケ原木としてちょうど良い太さに育った木を 4 本ほど伐採しました。伐採したクヌギは、来年 3 月まで伐採した場所で枯らした後に、1 メートルほ

どの長さに玉切りを行い、西側の伏せ込み場所まで運搬車で運び出し、植



菌を行う予定です。この原木からシイタケが発生するのは、二年後の 2026 年の秋になります。

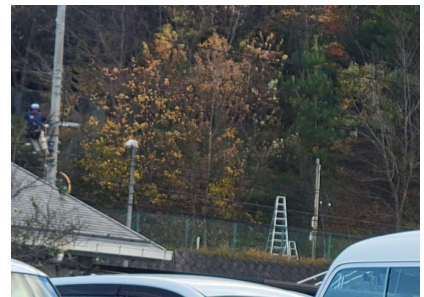
伐採された切り株からは、来年になれば新しい芽が発生しますので、この芽を成長させて大きく育てていきたいと考えています。(このような方法を萌芽更新と呼んでいます、典型的な里山の森の育て方の一つです)

受光伐の実施

休憩場所である東屋の上の斜面は、タブやヤブツバキなどの常緑樹が生長し、林床まで光が届き難い状態になっていますので、上層木を伐採して光を届けようと思っています。何年か前までは、キンランが見かけられましたが、消滅するか、年々株が小さくなっていますので光環境を改善をしていこうと思っています。12 月にかけて、受光伐を行います。

電気工事をしてもらいました

入り口にあった、倉庫の建物が撤去された関係で、電気配線もなくなりましたので、改めて受電の工事を松江市にしてもらうことになり 12 月 5 日に配線工事をしてもらいました。これからは東屋まで電気が通じることになります。



12 月の予定

- ・受光伐の実施
- ・林床の刈り払い及び落ち葉の掻き取り

田和山の樹木 第 55 回 ヤブツバキ

田和山では西側の斜面一帯でたくさん見ることが出来るのがヤブツバキです。ヤブツバキは本州から沖縄の林内に自生するツバキ科の常緑樹で、本州でも北に行くほど海岸部で、それ以外の場所では山地にも自生しています。学名の *Camellia japonica* (カメリア・ジャポニカ) のとおり日本の固有種です。ヤブツバキは他家受粉で結実するため近縁種と容易に交配することから、花色・花形に変異が生じやすく江戸時代から、多くの園芸品種が作出され珍重されています。



島根県内では、布部ダムの上流にある「川奥白椿」や玉湯町の「花仙山椿」がよく知られていますが、松江市の市の花も椿です。

ヤブツバキの葉は、てらてらとした艶があり、照葉樹林の代表と言っても過言ではありません。樹皮は褐灰色～黄褐色で滑らかで、山で見かけても葉と木肌で見間違えることはないと思います。



今後の活動予定 12 月 6 日(金)、12 月 13 日(金)、12 月 21 日(土)が本年の作業終いです。新年は、1 月 10 日(金)、1 月 18 日(土)、1 月 24 日(金)、1 月 31 日(金)となります。時間は 13:30 からです。ただし、土曜日は 9:00 から始めます。